

# 『南あわじ市地域情報化計画』に関する提言書（案）

平成 17 年 10 月

南あわじ市地域情報化計画検討委員会

## 目 次

第 1 章. 地域情報化計画検討委員会について.....	1
1.1 地域情報化計画提言書（本書）作成の経緯.....	1
1.2 検討委員会の開催.....	1
第 2 章. 情報化の現状と課題.....	4
2.1 地域情報化の現状と課題.....	4
(1) 情報化に関する市民アンケート.....	4
(2) ケーブルテレビ（さんさんネット）.....	9
(3) みどりネット.....	10
(4) オフトーク.....	10
2.2 行政情報化の現状と課題.....	11
(1) 職員アンケート.....	11
(2) 業者ヒアリング.....	12
2.3 情報基盤整備の現状と課題.....	13
(1) CATV 基盤.....	13
(2) 行政事務の通信基盤.....	13
第 3 章. 情報化推進施策の展開.....	14
3.1 基本方針.....	14
3.2 地域情報化の推進.....	15
(1) パソコン教室の開設.....	16
(2) 暮らしの情報提供サービスの充実.....	16
(3) 防災情報システムの充実.....	17
(4) 医療情報の広域利用.....	17
(5) 介護施設情報、介護サービスの充実.....	18
(6) 商店街等情報サイトの充実.....	18
(7) その他の事業.....	16
3.3 行政情報化の推進.....	19
(1) 電子申請システムの導入.....	19
(2) 電子入札調達システムの導入.....	19
(3) 文書管理システムの導入.....	20
(4) 施設予約システムの導入.....	20
(5) HP ユニバーサルデザイン化啓蒙事業.....	20
(6) 統合型地理情報システム（GIS）の導入.....	21
(7) その他の事業.....	19
3.4 情報基盤整備の推進.....	22
(1) CATV 基盤.....	22

(2)	行政事務の通信基盤.....	23
-----	----------------	----

資料一覧 (最終ページ)

## 第1章 地域情報化計画検討委員会について

### 1.1 地域情報化計画提言書（本書）作成の経緯

平成17年4月20日付告示第132号の南あわじ市地域情報化計画検討委員会設置要綱（資料 ご参照）に基づいて、南あわじ市地域情報化計画検討委員会（以下、検討委員会と表記）が設置されました。

検討委員会では、市民生活の利便性の向上、安全安心の地域づくり、地域コミュニケーションの活性化を図るため、南あわじ市における情報化のあるべき姿を総合的に検討し、地域情報化計画についての本書をまとめました。

本書では、市民及び市職員アンケート等で明らかにされた現状の課題を踏まえ、地域情報化や行政情報化の基盤整備に関する提言と共に、その基盤を利用して、今後、展開してほしい事業案に関する提言についても記述しております。

本書に記述した基盤環境や事業が、早期に実現することで、南あわじ市の情報化が一層進み、当検討委員会を含む多くの市民がコミュニケーション基盤充実の恩恵を受けることを願っています。

### 1.2 検討委員会の開催

検討委員会等については、以下の日程及び内容で開催されました。（各回の議事要旨については、資料 ご参照）

- ・ 第1回 南あわじ市情報化計画検討委員会  
平成17年6月2日（木）午後1時00分～
  - ・ 市長からの委嘱状交付
  - ・ 委員長及び副委員長の選出
  - ・ 地域情報化計画の内容と検討項目
  - ・ 南あわじ市情報化の現状報告

## 『南あわじ市地域情報化計画』に関する提言書

- ・ 市民アンケートの実施に関する協議
- ・ ケーブルテレビの整備状況報告

### 第2回 南あわじ市情報化計画検討委員会

平成17年6月30日(木)午後1時30分～

- ・ 研修実施 テーマ「国の情報化施策とこれからの地域情報化戦略」  
地域情報化の総合的な推進に向けて

- ・ 意見交換  
「地域団体、各種団体、各業界等における課題」  
「地域情報基盤の現況と問題点」  
「個別情報化施策の課題と今後の進め方」

### 先進地視察

平成17年7月19日(火)

- ・ 西宮市視察
- ・ NHK神戸のデジタル放送設備視察

### 公募委員応募者意見交換会

平成17年7月28日(木)

- ・ 公募委員応募者との地域情報化計画に関する意見交換会実施

### 第3回 南あわじ市情報化計画検討委員会

平成17年8月23日(火)午後1時30分～

- ・ 市民アンケートの結果報告
- ・ 検討委員アンケートの結果報告及び事業案協議
- ・ 市職員アンケート及びシステム業者ヒアリングの結果報告
- ・ 地域情報化計画の構成案について
- ・ CATV 基盤整備状況の報告

### 第4回 南あわじ市情報化計画検討委員会

平成17年10月5日(水)午後1時30分～

～ 実施後、記載 ～

## 『南あわじ市地域情報化計画』に関する提言書

第 5 回 南あわじ市情報化計画検討委員会

平成 17 年 10 月 日 ( ) 午後 時 分 ~

~ 実施後、記載 ~

## 第2章. 情報化の現状と課題

### 2.1 地域情報化の現状と課題

市民アンケート等の結果から、パソコンの世帯保有率においては全国平均の77.5%に対して、南あわじ市では77.7%とほぼ同等で、インターネット世帯普及率については、全国平均の55.4%に対して、南あわじ市では61.4%であり、若干高い水準であることが分かりました。

次に、テレビの受信状態に問題のある世帯は、南あわじ市全域では38.1%という状況であります。ケーブルテレビ未整備の緑地域、南淡地域に限ると62.8%の世帯において問題があることが市民アンケートの結果から分かり、南あわじ市地域情報化における大きな課題となっています。

また、最近の携帯電話の普及はめざましく、南あわじ市でもアンケート対象者(943人)の77.2%(728人)の方が利用しています。一方、南あわじ市には、携帯電話の不感地帯も一部存在します。このままの状況が続いた場合、地域情報化の重要な課題『緊急時の情報提供サービス』において、緊急時に不感地帯にいらっしゃる方には、緊急通報(携帯電話メールによる情報提供等)が機能しない可能性もあります。この課題の早期解消も重要です。

#### (1) 情報化に関する市民アンケート

南あわじ市では市民生活における情報化の現状や、情報化への関心やニーズなどを把握し、これからの南あわじ市における情報化のあるべき姿を総合的に検討するために「南あわじ市地域情報化市民アンケート」を実施しました。(市民アンケートの詳細については、資料 ご参照)

調査は、平成17年6月に市内に居住する20歳以上の市民を対象に、2,000人を抽出し、郵送により調査票を配布し、本人又は家族に回答してもらい943人より回答を得ました。回答率は約47%でした。

尚、サンプリングは住民基本台帳から年齢及び集落別人口を加味し、系統

抽出法（等間隔抽出法）<sup>1</sup>としました。

・ 市民生活における情報の入手方法

情報の入手方法

テレビ	91.3%
新聞	87.9%
広報紙	46.7%
インターネット	38.8%

市民が日常生活において情報を入手する手段としては、テレビ、新聞が圧倒的に多く、インターネットについては、広報紙に次いで4番目となっていることが分かりました。

市からの情報の入手についての不満

42.7%	ほしい情報がどこにあるのかわからない
33.0%	ほしい情報が少ない。十分な情報が提供されていない

また、市からの情報入手方法に対して「ほしい情報がどこにあるのかわからない」が42.7%で、「ほしい情報が少ない。十分な情報が提供されていない」が33.0%とそれぞれ高い数値になっており、多くの市民が市からの情報入手に何らかの不満をもっていることが分かりました。

・ テレビの受信状態

テレビの受信状態

（良く映らないチャンネルがある + あまり良く映らない + 全く映らない）

38.1%	南あわじ市全域
61.0%	緑地域と南淡地域のみ

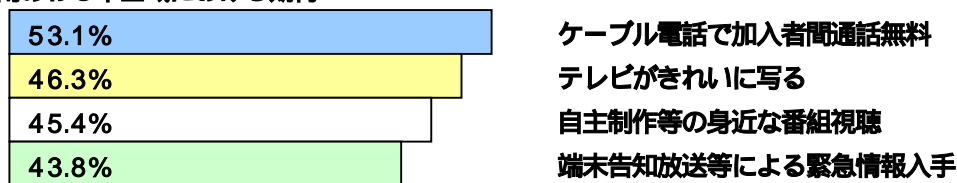
家庭でのテレビの受信状況については、「良く映らないチャンネルがある」が29.5%、「あまり良く映らない」が8.0%、「全く映らない」が0.6%で、テレビの受信状態に問題がある家庭が38.1%にも達しました。

特に、ケーブルテレビの未整備地区である緑地域と南淡地域に限って集計すると62.8%の世帯（2地域の回答のあった454世帯中、285世帯）で受信状態に問題を抱えていることが分かりました。

<sup>1</sup> 系統抽出法（等間隔抽出法）：母集団の全構成要素に通し番号をつける。はじめの一つの標本だけは乱数表などでランダムに選ぶ。それ以降の標本はこの数字から始めて一定間隔で抽出する。

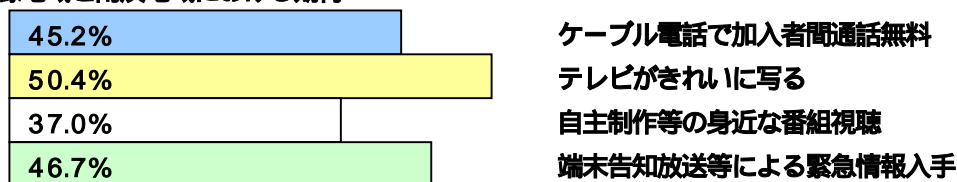
ケーブルテレビ(さんさんネット)のエリア拡張等の整備について

南あわじ市全域における期待



ケーブルネットワーク淡路(さんさんネット)に期待するサービス(既にサービスを受けられている方は特に便利だと思われるサービス)は、「ケーブル電話サービス」、「鮮明できれいな画像になる」、「自主放送サービス」、「告知放送サービス」の順に多く、多くの方がケーブルテレビ整備に大きな期待を抱いていることが分かりました。

緑地域と南淡地域における期待



一方、ケーブルテレビ未整備地域の緑地域と南淡地域については、「鮮明できれいな画像になる」ことを期待されている方がもっとも多く、テレビの視聴に問題がある家庭が多いことが反映されています。

緑地域と南淡地域におけるケーブルテレビ加入希望

(是非利用したい31.9% + 料金等の条件次第で利用したい41.0%)



市内全域でケーブルテレビが整備された際の緑・南淡地域の方の加入希望を聞いたところ、「是非加入したい」が31.9%、「料金等の条件次第で加入したい」が41.0%と合わせて72.9%の方が加入を希望しており期待の大きさが分かります。

インターネットの利用状況について

パソコン保有世帯



パソコンを保有している世帯は77.7%(733世帯)と全国平均77.5%(平成17年1月実施「平成16年通信利用動向調査」より)とほぼ同じ保有率であり、4分の3以上の世帯でパソコンを保有していることが分かりました。

パソコンによるインターネット利用世帯

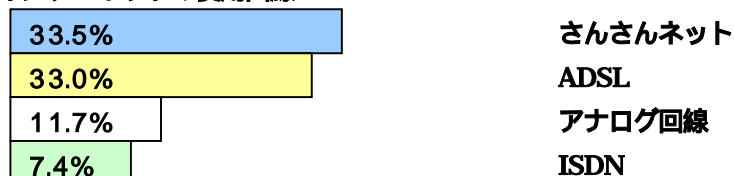


パソコンのある世帯でのインターネット利用状況は、「利用している」が79.0%で、「利用していない」が21.0%となっています。上記の世

帯保有率に掛けると、アンケート回答世帯における家庭でのインターネット利用率は、61.4%に達しています。

これは、日本のインターネット世帯普及率（「携帯電話/PHS」を除く自宅の機器でのインターネット利用者がいる世帯の比率：財団法人インターネット協会のインターネット白書 2005 より）の 55.4%より 6%も高い普及率になっています。

#### インターネットの使用回線



インターネット利用者がどの回線を利用しているのかについては、「さんさんネットケーブル回線」が 33.5%、次いで「ADSL<sup>ii</sup>」33.0%となっており、ほぼ同じですが、さんさんネットケーブル回線が緑地域・南淡地域に未提供のことを加味すると、同ケーブル回線の利用率は高いと言えます。

#### 光インターネットの利用希望

(是非利用したい 16.2% + 料金等の条件次第で利用したい 43.8%)



ケーブルテレビ整備に伴う民間通信事業者による光通信サービスへの加入希望を聞いたところ、「是非利用したい」が 16.2%で、「料金等の条件次第で利用したい」が最も多く 43.8%となっています。また、「いまのところわからない」が 30.2%で、「利用しない」が 8.4%となっています。条件が整えば、60.0%の方が光通信サービス利用の可能性がります。

パソコンを所有している世帯で、インターネットを利用していない方の理由については、「操作するための知識が不十分」が最も多く、次いで「回線使用料などの料金が高い」と「必要性を感じない」という理由があげられています。インターネットの利用促進のために、操作知識の習得機会を増やすことも必要です。

<sup>ii</sup> ADSL : (Asymmetric Digital Subscriber Line) 電話の音声を伝えるには使わない高い周波数帯を使ってデータ通信を行なう、xDSL 技術の一種。一般の電話に使われている、1 対の電話線を使って通信する。

・ 携帯電話の利用状況について

携帯電話の保有者

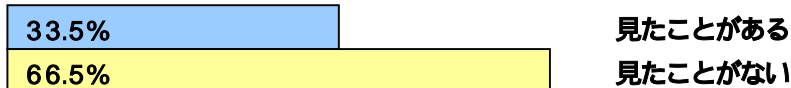


回答者のうち、携帯電話を保有している方は728人であり、77.2%の方が携帯電話を所有しています。携帯電話の世帯普及率に関しては、内閣府の「消費動向調査」では2004年の携帯電話世帯普及率は85.1%となっています（ただし単身世帯を含まない）。

普及率に関しては、全国平均には少し及ばないものの、回答者の4分の3の方が保有しており、携帯電話を有効に活用した地域情報化の推進に向けて、携帯電話の不感地帯についても解消していく必要があります。

・ 市のホームページについて

市のホームページの閲覧状況



多くの方が市のホームページを見たことがないことが分かりました。

市のホームページに市民のみなさまが興味のある情報を充実させる等、市のホームページを訪れる機会を増やす工夫を行うことが重要です。

・ 市の防災ネットについて

市の防災ネットサービスの認知度



市の防災ネットに「現在登録している」は7.2%で、「知っているが利用していない」が18.8%、「知らない」が73.7%であり、約4分の3の人が防災ネットサービス知らないことが分かりました。

・ 市が進める情報化施策とその利用方法について

市の重点的に進めるべき情報化施策分野



情報通信技術を活用する施策として、今後、市としてどのような分野に力を入れるべきかを2つ選んでいただいた結果、「各種申請や予約などの利便性の向上」と答えた方が最も多く51.1%、次いで「行政手続

## 『南あわじ市地域情報化計画』に関する提言書

きに要する時間・費用の削減など行政改革の一層の推進」が 45.5%、「行政情報の提供の充実」が 39.4%の順となっています。

これからの情報化に伴う利用したいサービスについて

以下の 5 分野に分けて聞いてみました。

### a) 保健・医療・福祉

保健・福祉・医療分野において利用したい地域情報化サービスは、「病院の診察予約や救急医療に関する情報が入手できる」が最も多く、次いで「病院の診療体制や医師紹介などの情報が入手できる」の順でした。

### b) 教育

教育分野において利用したいサービスは、「各種の講習・研修会の情報が入手でき、参加申し込みができる」が一番多く、次いで「図書館の蔵書検索・図書の予約ができる」の順でした。

### c) 産業・観光

産業・観光分野において利用したいサービスは、「地元商店街の買物情報・イベント情報を入手できる」が最も多く、次いで「市内のレジャー・イベントに関する情報を入手できる」の順でした。

### d) 市民生活・コミュニティ・防災

市民生活・コミュニティ・防災分野において利用したい地域情報化サービスは、「緊急時に市役所や消防署から災害状況・非難誘導・非難場所等の緊急災害情報を受けることができる」が最も多く、次いで「災害時、国、県道や市道などの道路情報が入手できる」の順で、災害時の情報伝達に高い要望があることが分かりました。

### e) 行政・広報

行政・広報分野において利用したい地域情報化サービスは、「自宅や各種公共施設、郵便局など身近な施設で住民票や各種証明書などの申請手続きができる」が最も高く、次いで「広報紙の過去の記事や最新の行政情報をインターネットで入手できる」となっています。

## (2) ケーブルテレビ(さんさんネット)

この事業は農水省の農村総合整備事業(緊急防災型)により、旧西淡町・旧三原町において実施され、平成 13 年 4 月 1 日に開局しました。

加入世帯数は、平成 17 年 5 月現在で、約 7,800 世帯で旧西淡町・旧三

原町の総世帯数の約 87%の世帯で利用されています。

課題としては、「(1)情報化に関する市民アンケート テレビの受信状態」で寄せられた回答から推測すると、緑・南淡地域のテレビ受信状態の改善が必要です。

また、地上波アナログ放送の停波する平成 23 年 7 月までに、再送信設備のデジタル化が必須となります。

### (3) みどりネット

旧緑町において無線 LAN を利用したプロバイダ<sup>iii</sup>事業が行われています。この事業は、平成 12 年度の地域インターネット導入促進基盤整備事業として、平成 13 年度からサービスを開始したものです。

この事業は導入当時、民間通信業者によるブロードバンド<sup>iv</sup>環境の整備の見込みがなく、その打開策として、旧緑町民のみなさまにブロードバンド環境をご提供するための基盤整備を目的としておりました。

しかし、民間事業者による ADSL サービスが開始され、18 年度中には光ブロードバンドサービスが市内全域で提供されるなど選択肢が増え、みどりネットの存在意義が薄れてきています。また、無線による通信性能や採算等の問題を考慮すれば、みどりネットの抜本的な見直しを図る必要があると考えられます。

### (4) オフトーク

オフトークは、平成 5 年 4 月に開局した、電話回線の空き時間を使った音声放送ですが、開局当初の 5,400 世帯に対して、平成 16 年度には 2,610 世帯に加入者が減少してきております。

このような状況を受けて、CATV の回線を利用した文字放送や音声告知放送等に一本化して運用面での効率化や放送体制作りを一層充実させていくなど利用者にも配慮しながら運営の効率化やサービスの維持・向上を図るよう、最適な事業運営・サービス提供に向けて検討していく必要があります。

---

<sup>iii</sup> **プロバイダ**：インターネット接続業者。電話回線や ISDN 回線、データ通信専用回線などを通じて、顧客である企業や家庭のコンピュータをインターネットに接続するのが主な業務。付加サービスとして、メールアドレスを貸し出したり、ホームページ開設用のディスクスペースを貸し出したり、オリジナルのコンテンツを提供したりしている業者もある。

<sup>iv</sup> **ブロードバンド**：高速な通信回線の普及によって実現される次世代のコンピュータネットワークと、その上で提供される大容量のデータを活用した新たなサービス。光ファイバや CATV、xDSL などの有線通信技術や、FWA、IMT-2000 といった無線通信技術を用いて実現される、概ね 500kbps 以上の通信回線がブロードバンドである。

## 2.2 行政情報化の現状と課題

平成 17 年 1 月 11 日の南あわじ市誕生に向けて、旧 4 町の電算システムの安全確実な統合が行われました。統合に当たっては、旧来のシステムを継承する新しいパッケージシステムを選定し、旧 4 町の各種データを漏れなく統合する方式が採択されました。

その結果、現在の行政情報システムは、いわゆるレガシーシステム<sup>v</sup>からの脱却を図り、最新のアーキテクチャー<sup>vi</sup>によるオープン系システム<sup>vii</sup>に移行できております。

南あわじ市では、行政情報化の現状と課題を把握するために、統合の対象となった 46 業務について、利用者（職員）に対するアンケート、並びに導入を担当した主な業者 4 社に対しても導入後の状況のヒアリングが行われました。（職員アンケート及び業者ヒアリングの詳細については、資料 参照）

### (1) 職員アンケート

職員アンケートでは、各課係を代表する 40 名の職員を対象として、46 業務システムに関する現時点での課題について調査が行われました。

結果として、利用者が多い「住民基本台帳」「財務会計」「グループウェア<sup>viii</sup>」「例規集検索」については、概ね評価が高く問題が無いことがわかりました。その他の業務に関しては総合評価で 30%程度の不満があり、業務毎に状況は異なるものの今後の改善を図っていく必要があります。

今回導入した住民情報系業務システムでは、総合窓口システムを採用し、住民票をはじめとするほとんどの証明書がひとつの窓口で受取れるようになりました。

---

<sup>v</sup> レガシーシステム：時代遅れとなった古いシステムのこと。主にコンピュータシステムを指して用いられる。

<sup>vi</sup> アーキテクチャー：ハードウェア、OS、ネットワーク、アプリケーションソフトなどの基本設計や設計思想のこと。元来、建築学における設計術あるいは建築様式を表していた。

<sup>vii</sup> オープン系システム：様々なメーカーのソフトウェアやハードウェアを組み合わせて構築されたコンピュータシステム。各社が OS やアプリケーションソフトの外部仕様を公開することで実現されている。価格や性能を比べてもっとも良い製品を組み合わせることができるというメリットがある。

<sup>viii</sup> グループウェア：企業内 LAN を活用して情報共有やコミュニケーションの効率化をはかり、グループによる協調作業を支援するソフトウェアの総称。

しかし、市民アンケートのご意見でも、窓口のさらなる一元化を求める内容が多くあり、今後も市民がさらに利用しやすい窓口になるよう改善を進めていただきたいと思います。

一方、内部事務の面では、来年度から文書管理システムの運用が開始される予定となっており、広域化した行政事務のより一層の効率化に期待します。

今後導入したい業務システムについては、地図を利用した行政事務の効率化が望まれており、課毎に分散する紙や電子媒体での地図情報を南あわじ市全体で効率よく利用するため、**統合型 GIS<sup>ix</sup>**の導入が望まれています。また地図情報は、行政内部だけでなく防災や福祉医療など住民生活と関わりの深い分野での情報にも活用が見込まれますので、住民にとっても視覚的で分かり易い情報が得られることが期待できます。

## (2) 業者ヒアリング

業者ヒアリングでは、前述の 46 業務システム導入元主要 4 業者に対して、合併時に目指した統合作業における積み残しや現時点での課題について調査が行われました。

結果として、これらの業務システムについては、大きな積み残しは無く、順調に稼働しており、今後、施設予約システムが平成 17 年下期に、文書管理システムが平成 18 年度に順次稼働する予定です。

また、戸籍事務の効率化として、住民基本台帳を利用する「戸籍附票連携」「住民票参照連携」が平成 17 年度内に稼働する予定です。

---

<sup>ix</sup> **統合型 GIS** : Geographical Information System (地理情報システム) デジタル化された地図(地形)データと、統計データや位置の持つ属性情報などの位置に関連したデータとを、統合的に扱う情報システム。庁内 LAN 等のネットワーク環境のもとで、地方自治体が利用する地図データのうち、複数部局が利用するデータ(例えば道路、街区、建物、河川など)を各部局が共有できる形(共用区間データ)として一元的に整備し、利用していく庁内横断的なシステム(技術・組織・データの枠組み)。

## 2.3 情報基盤整備の現状と課題

### (1) CATV 基盤

CATV の基盤は、現在のところ西淡地域・三原地域のみであり、旧来の同軸ケーブルによる配線となっています。

課題としては、

- ・ 緑地域・南淡地域におけるテレビの受信状態問題の解消
- ・ 西淡地域・三原地域を含めた市内全域でのデジタル放送基盤の整備
- ・ ケーブル電話による加入者間無料電話の範囲拡大
- ・ 市内全域での光ブロードバンドサービスの提供
- ・ 携帯電話の不感地帯の解消
- ・ 文字放送、音声告知放送（災害対策を含む）の市内全域での整備

などがあげられます。

### (2) 行政事務の通信基盤

現在の住民情報系及び内部情報系通信基盤は、合併時点で旧 4 町の庁舎間を接続可能な高速（ギガビットクラス）の回線が必要であったため、(株)ケイ・オプティコム（ケイコム）の光ファイバを借り上げて利用し、出先等については、西日本電信電話（株）のフレッツ回線を利用しています。

現状の課題としては、内部情報系事務の通信基盤が、緑地域・南淡地域の CATV 網が未整備のために、両地域については借り上げ線による運用となっていること、また、住民情報系事務の通信基盤については、CATV 網の光幹線が未整備のため、全エリアで借り上げ線を使用していることにあります。

市内全域で自営の光幹線網が整備されれば、借り上げ線廃止による運用コストの軽減と、主要 5 庁舎以外の公共施設においても光ブロードバンド環境の提供がなされるよう希望します。

## 第3章. 情報化推進施策の展開

### 3.1 基本方針

現在、平成 15 年 10 月に緑町・西淡町・三原町・南淡町合併協議会において作成した『新市建設計画』並びに、平成 17 年 6 月に発表しました『平成 17 年度施政方針』に基づき『「食」がはぐくむ ふれあい共生の都市<sup>まち</sup>』を基本理念として、まちづくりを推進しています。

本書においても、新市建設計画の以下の 5 つの基本方針に沿った事業を展開することを提言します。

- ・ 安心とうるおいを与える生活環境
- ・ 次世代の人材を育てる教育・文化の充実
- ・ 自然環境に調和した産業の振興
- ・ 利便性の高い都市基盤の整備
- ・ 活発な住民活動の創出と連携・交流の促進

また、今回の地域情報化計画を推進するに当たり、以下のようなスローガンを決めました。

南あわじ市地域情報化スローガン

「 ~ ~ ~ スローガン ~ ~ ~ 」

~ (簡単な説明文をつけます) ~

小項目スローガンとして、以下の4点を重点に進めていくことを希望します。

- ・ 「市民を守る情報ネット」医療・防災・危機管理・福祉・健康
- ・ 「暮らしに役立つ情報ネット」電子自治体<sup>x</sup>、施設利用、講座情報、図書、イベント、市ホームページの等の充実
- ・ 「資源を生かす情報ネット」「食」地場産業、観光、商工業
- ・ 「市民参加型情報ネット」パソコン研修、地域密着型ホームページ、自主番組参加(さんさんネット)、情報センター、推進組織

### 3.2 地域情報化の推進

地域情報化の推進については、検討委員会の委員を対象にアンケートを実施し、希望された行政情報化も含めて21の事業案について、実施の可能性と問題点についての協議を第3回検討委員会において実施しました。

その結果、いくつかの事業案を統合し、以下のような事業に整理しました。

また、各事業については、その実施希望時期についても協議し、優先度A(早期実現)、優先度B(時期を見て実現)、優先度C(今後検討)の3つに分類しました。

---

<sup>x</sup> 電子自治体：地方公共団体の行政機能をインターネット上で提供しようとするもので、インターネットを通じて、原則として24時間・365日、いつでもどこからでも誰もが簡便かつ安全に行政サービスにアクセスし、その便益をひろく享受することを可能とする環境。

## (1) パソコン教室の開設

事業名	パソコン講座
優先度	A ; 早期実現
事業の概要 及び留意点	<p>パソコン教室等の講座の開催により、基礎的なパソコンの扱いやインターネットアクセスの楽しさについて学ぶきっかけを提供してほしいと思います。</p> <p>勿論、民間でパソコン教室を開設している事業者に対する配慮が必要で、基礎的な内容を中心とした講座を、民間業者の意見も取り入れながら、民間の講師を招聘する形で実施していくことを望みます。</p> <p>講座内容については、受講者のプライバシーにも配慮しながら CATV での撮影及び放送も検討し、受講者の講座内容の復習にも役立ち、受講を検討している方の受講するきっかけの提供や、病気等の何らかの事情で教室に来られない方の自宅学習にも利用できるようにすることも必要です。</p>
運営主体	教育委員会、商工会、民間事業者

## (2) ぐらしの情報提供サービスの充実

事業名	ぐらしの情報提供サービス
優先度	A ; 早期実現
事業の概要 及び留意点	<p>市のホームページの拡充を図り、以下のようなコンテンツ<sup>xi</sup>を増やすことを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域固有の「知恵、知識、しきたり、祭祀、伝統、芸能、歴史」等の地域に密着した内容の質問・相談の受付及び回答のための電子掲示板の運用</li> </ul> <p>回答者がインターネットを使っていないことも考えられますが、身近にいる方々が知識のある高齢者の回答を代理で載せることもコミュニケーションの活性化に繋がるものと考えます。</p>
運営主体	南あわじ市

<sup>xi</sup> コンテンツ：文字・画像・動画・音声・ゲーム等の情報全般、又はその情報内容のこと。電子媒体やネットワークを通じてやり取りされる情報を指して使われる場合が多い。

## (3) 防災情報システムの充実

事業名	緊急時の情報提供サービス
優先度	A ; 早期実現
事業の概要 及び留意点	<p><b>オンデマンド<sup>xii</sup></b>文字放送や地図情報を組み合わせた各種情報が緊急時に早く正確に発信されることを望みます。</p> <p>まずは、市民アンケートにあった「市の防災ネットサービス」の周知を図り、その後、情報提供手段の拡充と緊急情報の種類の充実を図ることが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報提供手段 CATV 放送、インターネットメール、携帯電話メール、CATV の文字放送、音声告知放送、屋外拡声器、防災無線等</li> <li>・ 緊急情報の種類 災害（火災）、事故、治安（不審者の通知）、消防団員等の緊急出動要請、緊急時の高齢独居者の確認要請等</li> </ul>
運営主体	南あわじ市

## (4) 医療情報の広域利用

事業名	医療情報の広域利用
優先度	B ; 時期を見て実現
事業の概要 及び留意点	<p>健康診断や血液検査等の集積データを地域の医療機関で共有し、地域住民の保健医療に役立てることが必要です。</p> <p>利用者の同意の下に医療情報を医師が閲覧できる仕組みが必要なので、住基カード等の IC カード<sup>xiii</sup>の利用も含めて、できる範囲から実現を図ることを望みます。</p>
運営主体	南あわじ市

<sup>xii</sup> オンデマンド：利用者の要求があった時にサービスを提供する方式。

<sup>xiii</sup> IC カード：キャッシュカード大のプラスチック製カードに極めて薄い半導体集積回路(IC チップ)を埋め込み、情報を記録できるようにしたカード。電子マネーやテレホンカードなどに応用されている。磁気カードに比べて 100 倍近いデータを記録でき、データの暗号化も可能なため偽造にも強い。

## (5) 介護施設情報、介護サービスの充実

事業名	介護施設情報、介護サービスの充実
優先度	B；時期を見て実現
事業の概要 及び留意点	<p>介護施設（介護老人福祉施設、居宅介護支援事業）の空き情報を提供することが必要です。</p> <p>ニーズにあった介護サービス事業者の所在地やサービス内容の検索ができることも望みます。</p> <p>介護サービス事業者の情報は、事業者自身に更新してもらうような仕組みがあると情報の鮮度が保てると思います。</p> <p>最後に、独居老人への昼食サービス（学校給食センター利用等）も検討していただきたいと思います。（CATVを使った注文等）</p>
運営主体	南あわじ市

## (6) 商店街等情報サイトの充実

事業名	商店街等情報サイトの充実
優先度	B；時期を見て実現
事業の概要 及び留意点	<p>地元経済の活性化のため、商店街の利用促進に結びつくサイトの提供が望まれます。</p> <p>サイト<sup>xiv</sup>のコンテンツは、商店街情報（業種、店名、地図、商店街別に検索可能）やその地域内の公共的情報（保育園、幼稚園、図書館、スポーツ施設、福祉施設）など地域内の情報がワンストップ<sup>xv</sup>で得られる情報提供サービスや地域住民を対象とした住民同士のコミュニケーション機能などが必要です。</p> <p>今後、利用が促進されるコンテンツの検討や、既に商店主が個人で何らかのサイトを提供している場合など関係する他のサイトとの関係の調整（融合など）、市もしくは商工会等のどちらが主導していくのか等の検討が必要となります。</p>
運営主体	商工会

<sup>xiv</sup> サイト：1冊の本のように、ひとまとまりに公開されている Web ページ群。また、その Web ページ群が置いてあるインターネット上での場所。

<sup>xv</sup> ワンストップ：一度の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられるように設計されたサービス。特に、様々な行政手続きをいっぺんに行なえる「ワンストップ行政サービス」のことを指す場合が多い。

## (7) その他の事業

この他に、優先度 C（今後検討）にランクした以下のものがあります。

「GIS を利用した市民ポータル<sup>xvi</sup>」、「学校の授業のテレビ中継」、「パブリックアクセス事業（市民持込映像コンテンツの CATV 放映義務化）」の事業は、今後、5 年間で実現を図るには、費用、法令、倫理などの難しい問題をはらんでいるため、今後の検討課題としていただきたいと思います。

## 3.3 行政情報化の推進

## (1) 電子申請システムの導入

事業名	電子申請システムの導入
優先度	A；早期実現
事業の概要 及び留意点	兵庫県と県内自治体で検討を重ねている、申請届出等の電子化に向けた共同システム事業に参画する形で推進しているとの事なので早期の実現を望みます。
運営主体	南あわじ市

## (2) 電子入札調達システムの導入

事業名	電子入札調達システムの導入
優先度	A；早期実現
事業の概要 及び留意点	公共事業の入札、調達業務の透明化を図ることや、電子化による業務の効率化、正確性を図って欲しいと思います。  初期投資にかかる費用の問題にも考慮し、また、小規模の地元業者の排除に繋がらないような工夫をお願いします。
運営主体	南あわじ市

<sup>xvi</sup> **ポータル**：入り口のこと。ポータルサイト：サーチエンジン、ニュース速報、オンラインショッピング、掲示板等インターネット上の様々な情報が集約されたサイトのこと。インターネット利用者がウェブに接続した際に訪れる「入口（ポータル）」となるためにこう呼ばれる。

## (3) 文書管理システムの導入

事業名	文書管理システムの導入
優先度	A ; 早期実現
事業の概要 及び留意点	役所の内部事務の一層の効率化に向けて、平成 18 年度から導入予定となっていますが、将来の情報公開請求の電子申請との連携を目指して、更なる充実をお願いします。
運営主体	南あわじ市

## (4) 施設予約システムの導入

事業名	施設予約システムの導入
優先度	A ; 早期実現
事業の概要 及び留意点	合併による対象施設の増加に対処するため、学校施設のインターネット照会と予約、社会体育施設のインターネット照会ができるよう準備が進められていますが、今後、公民館を含む予約対象施設の範囲拡大を検討していただきたいと思えます。
運営主体	教育委員会

## (5) HP ユニバーサルデザイン化啓蒙事業

事業名	HP ユニバーサルデザイン化啓蒙事業
優先度	A ; 早期実現
事業の概要 及び留意点	<p>市民アンケートにありました「ほしい情報がどこにあるのか分からない」という不満の解消のために、まずは、市役所のホームページの改善に着手していただきたいと思えます。</p> <p>改善の経緯やその成果を公開することで、「ユニバーサルデザインのホームページ作り」の啓蒙を行うことを望みます。</p> <p>高齢者や障害者にもやさしいホームページ作りを目指すことを望みます。</p>
運営主体	南あわじ市

## (6) 統合型地理情報システム（GIS）の導入

事業名	統合型地理情報システム（GIS）の導入
優先度	B；時期を見て実現
事業の概要 及び留意点	<p>現行システムの情報をうまく生かしつつ、各課で必要とする統一的な仕組みの導入が望まれます。</p> <p>職員アンケートでもGISの導入希望がありましたし、地域情報化における「地図を使った防災情報」や、「地図を使った商店街情報」の実現に結びつくものを期待します。</p>
運営主体	南あわじ市

## (7) その他の事業

この他に、「住民票や各種税証明等の自動交付機の設置」や「TV 電話システム」の要望もありましたが、前者については、導入費用と想定する証明発行枚数を十分に考慮して検討していただくこと、また、後者についても、予測される利用頻度や運用時の住民のプライバシー保護等に十分な配慮が必要で、今後の検討課題としていただきたいと思います。

### 3.4 情報基盤整備の推進

市民アンケートの結果からも CATV 未整備地域での早期の基盤整備が望まれております。

情報通信基盤は、地域情報化や行政情報化を推進するための重要なインフラ設備であり、地域住民の生活を豊かなものとするためにも、将来のデジタル放送にも対応した通信・放送の一体的なネットワークを早期に市内全域で整備することが必要です。

#### (1) CATV 基盤

##### 整備方式

今回の拡張計画では、伝送路については、光/同軸ハイブリッド方式<sup>xvii</sup> (FTTC)で構築し光ファイバループ方式<sup>xviii</sup>により、緊急防災型で構築を行ったさんさんネットの耐障害性を継承することが重要です。

この FTTC 方式と FTTH 方式の比較では、既設地域の改修を含めた全体の構築費用の問題等を十分に加味して総合的に比較検討した結果、南あわじ市ケーブルテレビ整備工事の構築方式は、FTTC 方式が妥当と判断しました。(両方式の比較については、資料 ご参照)

FTTC 方式のデメリットとして整理した「電源を必要とする機器(ノード、アンプ、PS)を多用するため落雷による故障の可能性がある」という弱点をカバーするために今回はミニノード(準アンプレス)方式を採用することを推奨します。

ミニノード(準アンプレス)方式とは、従来、光ファイバの接続拠点(中継点)当たり 100~200 加入者が標準であったものを、1 接続拠点(中継点)当たり 30 加入者程度まで少なくし、アンプを最小限に抑えて用いる方式であり、これにより落雷等の被害は最小限になるものと期待します。

---

<sup>xvii</sup> 光/同軸ハイブリッド方式：CATV 網のネットワーク構成方法の一つで、光ファイバと同軸のケーブルを組み合わせたもの。基幹部分に光ファイバを用い、光電気変換装置を介してユーザ宅の引き込みには同軸ケーブルを用いる。

<sup>xviii</sup> ループ方式：伝送路がループ状になっており、幹線で断線しても反対方向からの送信が可能となった耐障害性の強いネットワークの設計方式。

### 民間サービスの導入促進

光ブロードバンドサービスについては、市が自設する幹線光ファイバケーブルを民間事業者に開放（賃貸）し、市内全域での光通信サービス（光インターネット及び光電話等）が可能となる方向で進められていますが、無線LAN サービススポットの展開をはじめとする多様なサービスを楽しむよう、さらなる推進を望みます。

また、携帯電話の不感地帯対策としては、不感地帯の窮状を携帯各社に訴え、市からの支援としては、ケーブルテレビ余剰心を貸し出す等により、携帯電話不感地帯の早期解消に努めていただきたいと思います。

### (2) 行政事務の通信基盤

住民情報系及び内部情報系通信基盤は、自営のCATV 光幹線網完成に伴って、現在の借り上げ線の部分について利用を中止し、自営線への変更による運用コストの低減を目指していただきたいと思います。

ただし、これまでと同様に、情報の内容によって物理線の分離や、論理分割（VLAN）<sup>xix</sup>を行うことで、情報セキュリティ対策には万全を期していただきたいと思います。

---

<sup>xix</sup> 論理分割（VLAN）：ネットワークにおいて、物理的な接続形態とは独立に、端末の仮想的なグループを設定すること。

## 資 料

- ・ 南あわじ市地域情報化委員会設置要綱
- ・ 検討委員会議事要旨（第 1 回～第 5 回）
- ・ 地域情報化市民アンケート調査結果報告書
- ・ システム業者ヒアリング及び市職員アンケートについて
- ・ FTTC 方式と FTTH 方式のメリット・デメリット